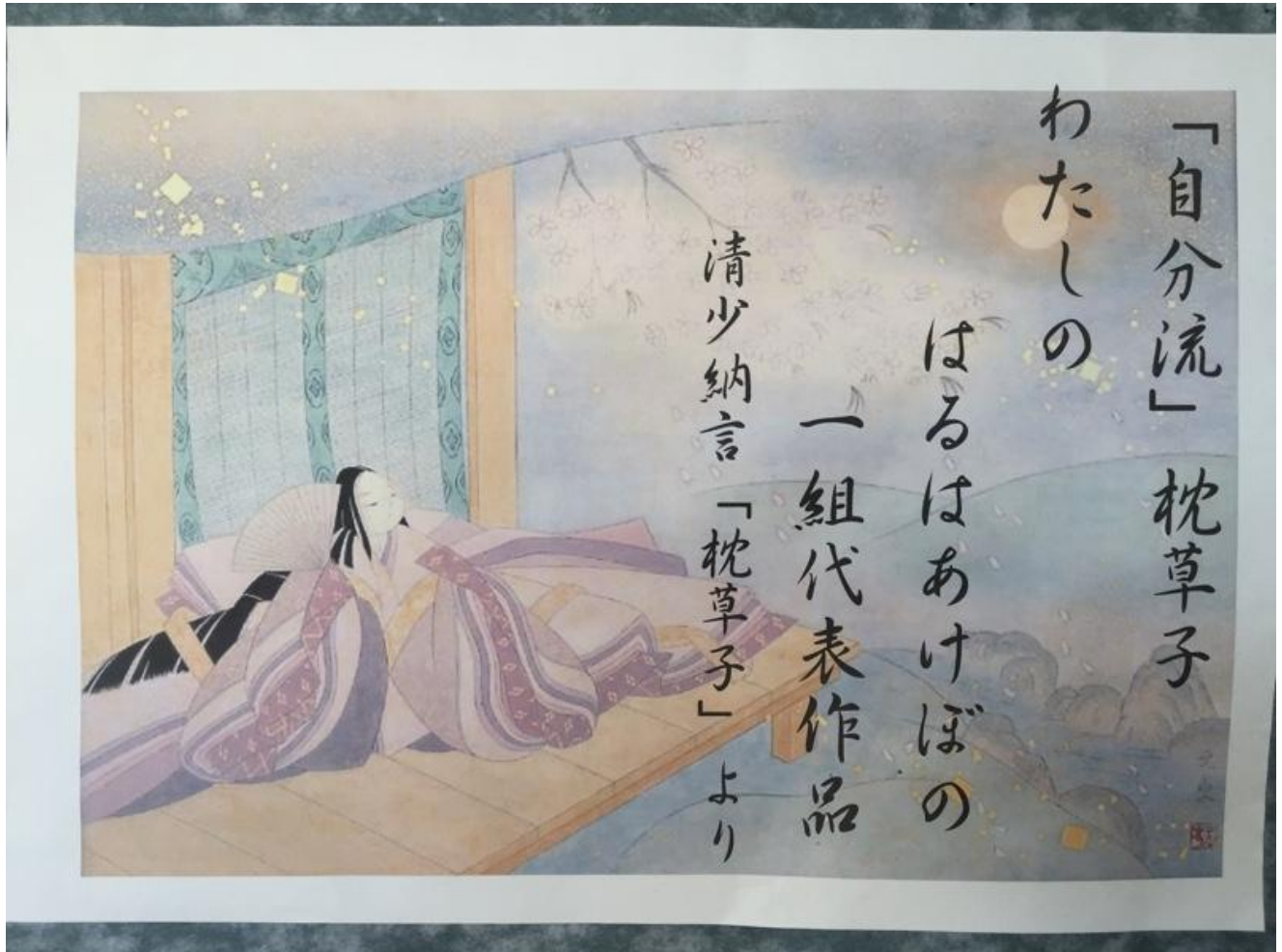


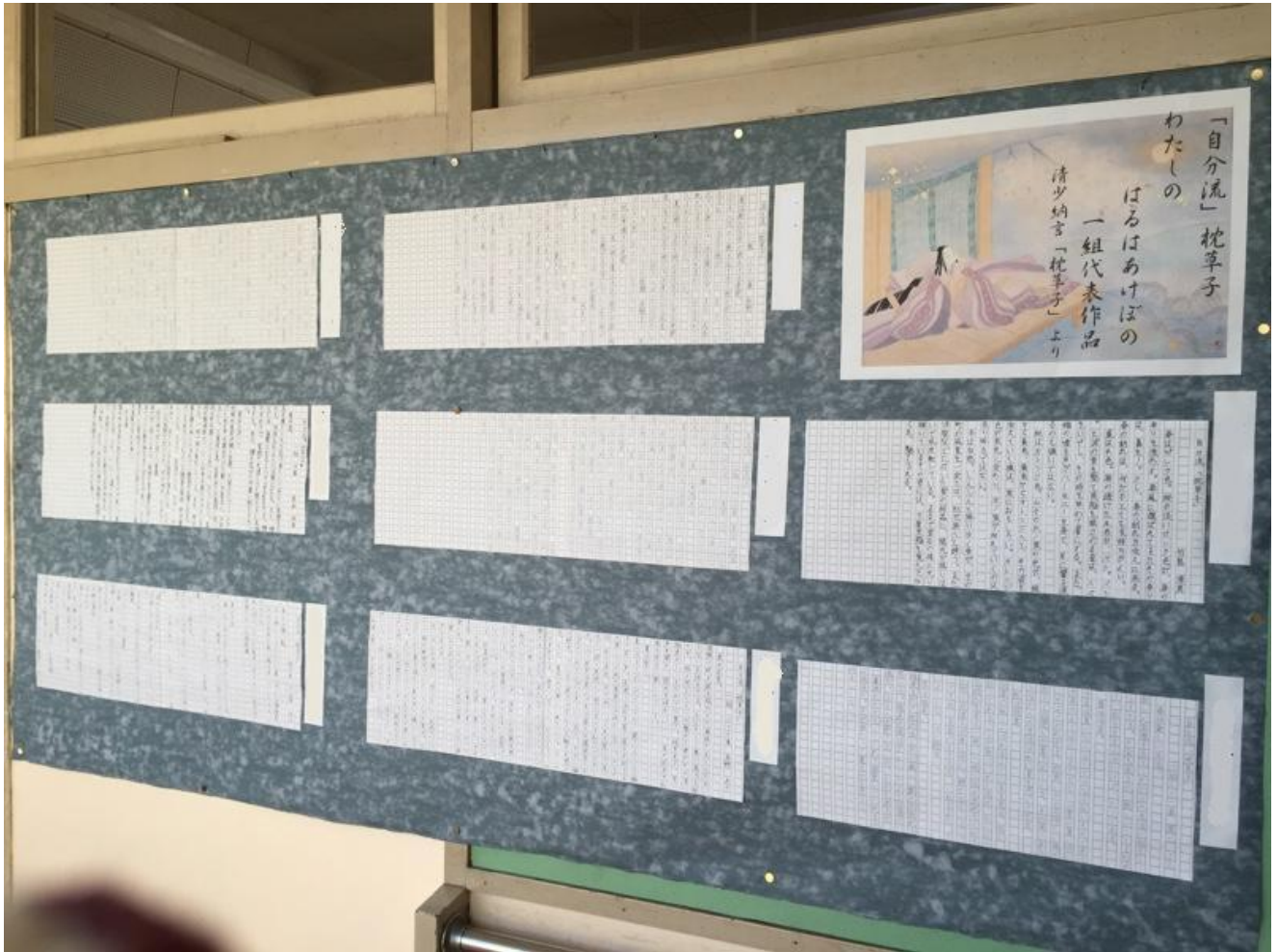
国語 『自分流 枕草子』

～わたしの はるはあけぼの～

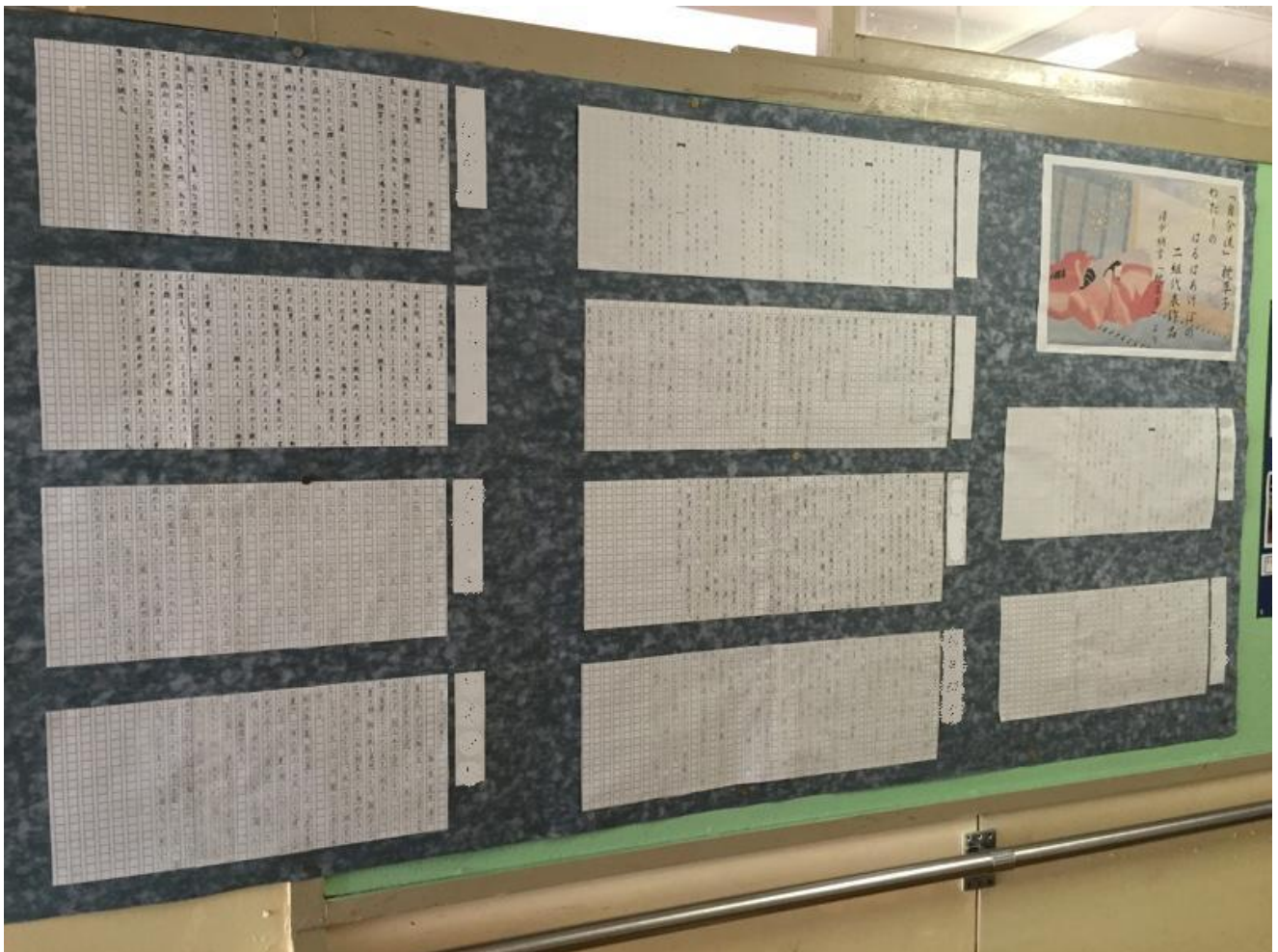
2年生が国語の時間に取り組んだ、『自分流 枕草子』～わたしの はるはあけぼの～の代表作品が、廊下に掲示されています。なかなか素晴らしい感性ですね。



【1組の代表作品】



【2組の代表作品】



香は、花見。ボリボリと咲かない中で、淡いピンクに色づいた桜も見るとは、とても気持ちがいい。佐は、桜の木を囲んで、みんな来て楽しむ人の心が好きだ。家族みんなが花見に行く。みこま、心かっになるような気がする。夏は、祭り。もし暑いところの中、喜びと興奮でいっぱい。そう、無くなる。僕らは、遊びに来る子供のために汗を流した方が、働く大人の優しさが好きだ。めき、全魚すくい、焼そば、全場まで行く間まで、楽しく明るいものとなる。子供の和服姿、セミの鳴き声を全て心地よく感じる。秋は、紅葉。紅葉の季節がある。僕は、力強く立っている紅葉が好きだ。その形、色、全てに興味を持っていく。とんだに人が多くても、その様子は、日にとまる。冬は、雪遊び。一面雪景色の中、子供達が獲いかかるように雪に飛び込む。僕は、雪で遊ぶ子供達の笑顔や笑い声が好きだ。雪で遊ぶまわり、かまくら作り、雪合戦など。いろんな方法で遊ぶことができる。一つの物でたくさん遊べる。その全てを遊ぶように子供は、とても面白い。

春はピンク色。桜の淡いピンク色が、春の香りを漂わす。春風に運ばれてきたその香りは、鼻をノックし、春の訪れを伝える。春の訪れは、何だかとても気持ちがいい。夏は水色。海の透けた水色が、バシャバシャと波の音を堅て貝殻を揺さぶる音は、人々をいやし、その時を早めて虜にする。また、蟬の鳴き声がハーモニイを奏で、耳に響き渡るのも嫌いではない。秋はオレンジ色。山々の木ノ葉の色が、緑から黄色、黄色からオレンジへと、その姿を変えていく様は、実におもしろい。オレンジ色が茶色に変わり、木ノ葉が枯れていくのは、余り好きではない。冬は白色。しんしんと降りゆく雪が、その町の風景を一変させ、別世界へと誘う。また洋服などに付いた雪の結晶に、陽光が降り注いで乱反射している。まるで寶石の様に光り輝いているその姿には、大層美感を覚えさせられ、魅了される。